

平成 23 年 10 月 13 日

FIG 第 7 部会出席報告

第 7 部会
海津 優

このたび海津が日本測量者連盟より派遣されて、平成 23 年 9 月 26 日より 9 月 30 日まで、オーストリア共和国インスブルック市郊外の、国立建設研修所において開催された 2011 年度 FIG 第 7 部会年次総会に出席したので概要を報告する。

1. 会議の概要

プログラムは 12 のセッションと国際公開シンポジウムからなっており（添付プログラム参照）、26 日-29 日にかけて、約 50 名が参加して FIG としての活動、WG の報告、特に興味ある状況、災害における地籍の取り扱い、各国のレポート、建物の取り扱い、ISO 19152 (LADM) の審議状況報告、WG の活動方針の確認と提案、2014 年以後の地籍に関するビジョン今後の関連する国際会議の予定など 37 件の発表と討議が行われ、30 日は地元測量学会との共催で、国際シンポジウム「地籍 2.0」として約 100 名が参加し、10 件の発表と討論が行われた。海津はセッション 6「災害対応と地籍」において東日本震災とそれにかかる土地管理上の問題について発表した。このセッションでは、ニュージーランドからクライストチャーチの地震で市内に断層があらわれ、液状化も生じたことで、所有境界の扱いに苦慮していること、ハンガリーからは、鉱山の鉱滓ダムの決壊に伴い汚染被害が生じた際、環境保全、避難、保障などで地籍データが数値的に速やかに利用できたことで対応が巧く行った事等も発表され、いずれの講演者も、休み時間や食事に際していろいろな国の参加者から質問が寄せられ、注目された。

2. 災害対応WG

海津は災害対応 WG に所属しているが、今回の会期中に、これまでの取りまとめと今後の活動方針についての打ち合わせが行われた。災害対応WGの計画においては、日本、ニュージーランド、ハンガリーのほか、アイスランド、マレーシア、ブルネイなどの経験についてケーススタディ用の資料を作ることが好ましいとの意見が出て、FAOと協力して地震のみならず、風水害や地盤災害などについても事例を収集し、写真を交えて簡単に記述した資料を作り、途上国の関係者の訓練にも役だてることとなった。この際、途上国での地図整備が必ずしも良くないとの意見があり、海津より同じ国連で、地球地図プロジェクト（国土交通省及び地理院が深くかかわっている）があるので活用すべきであると発言し、フランスからの参加者等から支持された。

3. 注目すべき話題

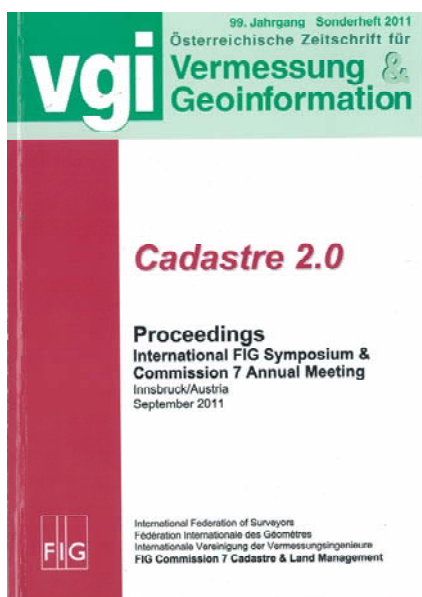
今回の会議で特に注目すべきは、現状ではまだ位置精度に難があるものの、測位機能と通信機能

を有する i-phone や i-pad に代表される道具が発達し、オープンストリートマップのようなものと組み合わせられると、従来の地籍調査よりはるかに速く、よりリアルタイムの情報が測量者以外のものによって収集される可能性があり、非正規的な地籍情報に準ずるものがあふれてくる可能性があることに多くの関係者が注目し、その可能性と、所有権の保護上の問題点が討論されたことである。「地籍 2.0」は、まさにこれに特化したシンポジウムで、測量士のみならず、弁護士も出席して権利関係の懸念を表明する一方、その効率性から、将来精度向上があった場合の取り扱いには留意すべきで、ほっておけば非正規地籍の横行が止められないであろうとの指摘もあり、かなり厳しいやり取りがおこなわれ、大変興味深かった。もうひとつ注目されたのは地籍の 3 次元化で、韓国、マレーシア、オランダなどから建物の 3 次元記述について報告されたほか、オランダからはトンネルやマイクロ波アンテナを例に取り、地中あるいは空中に権利が設定されるのが適当である場合の管理境界、法的権利の境界をどのように設定し、地籍調査や登記で扱うのかとの問題提起があり、このため、今回の現場見学はカフスタイン市にある地方地籍局に加えて、トランスヨーロッパネットワーク高速鉄道トンネル、インスブルック工区の工事現場を見学し、実際に緊急脱出口が畑の中にあることを見たり、トンネル内部を歩いてみることで、3 次元地籍について考えるという試みがなされた。

地籍調査の促進は、アフリカで問題になっている土地強奪 (Land Grabbing) 対策の観点からも強調されているが、その手法として、位置情報と通信およびオープンな地図および衛星写真の組み合わせが注目されていた。

4. プロシーディング

発表された論文のうち、締め切りまでに提出があった論文 (海津の報告を含む) についてはオーストリア測量学会誌の特別号としてプロシーディングにまとめられ、最終日に配布された。



プロシーディング

会議風景



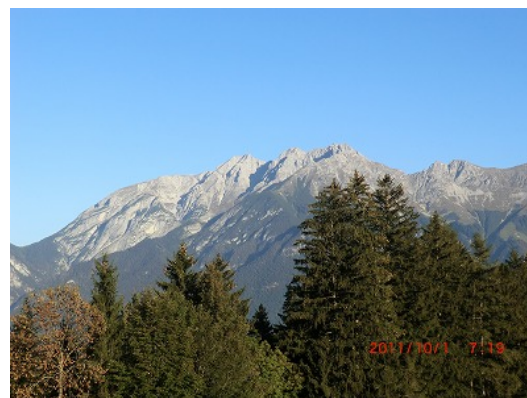
現地実行委員長シェンナハ博士の挨拶



国際シンポジウムにおける世銀の発表



地方地籍局にて



研修所から見えるチロルの山並み



会場（左の建物は宿舎）



会場前の道路に立てられた FIG の旗

オフィシャルディナーの際、スイスのカウフマン氏がギターを持ってきて、「第7部会のバラード」なる歌を演奏し、出席者全員で歌っていたが、その歌詞を添付する。

The Ballade of Commission 7

by Jürg Kaufmann, Switzerland (20.6.96)

In the world you find a commission
a better commission you'll never see
:And this is our Commission 7
Commission 7 of FIG:

People from Commission 7
like every year to pay a fee
:Because they love Commission 7
Commission 7 of FIG:

Every year we join a meeting
Without, I think we could not be
:We sing the song of Commission 7
Commission 7 of FIG:

I must say Commission 7
is a great pleasure, not only for me
:So let us sing of Commission 7
Commission 7 of FIG:

I think you heard of Mr. Shakespeare
he said 'to be or not to be'
:and made the song of Commission 7
Commission 7 of FIG:

第7部会のバラード
スイス代表ユルク・カウフマン作

第7部会は世界に冠たる部会
そうさ、これが FIG 第7部会だ

第7部会のみんなは毎年会費を
喜んで払う。それはみんなが FIG
第7部会が好きだから。

毎年俺たちは集まる。これがなき
ゃ生きては行けない。
で俺たちや FIG 第7部会の歌を
歌うのさ

第7部会は楽しい部会。そりゃお
いらだけじゃない。だから歌おう
FIG 第7部会の歌を

シェイクスピアは知ってるよな。
生きるべきや死すべきやと言っ
たんだ。それで FIG 第7部会の歌
を作ったのさ